

クマ外傷による放射線画像所見と重症度に関する検討
: 生存症例と死後画像診断症例の比較から

1. 研究の対象

2001 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までに当院でクマ外傷に対する CT を施行された患者様

同期間に法医学講座にてクマ外傷に対する死後画像診断 CT を施行された患者様

2. 研究目的・方法

近年、秋田県でクマによる被害が増加しています。特に 2023 年はツキノワグマの出没が多く、住宅街や集落内でのクマの目撃が増加して、農作業中や散歩中の事故が発生しました。原因としては気候変動によりクマを含む野生動物が食べ物を求めて自然の生息地を離れ人の生活圏に近づくことを余儀なくされているためとも考えられています。クマ外傷はクマによる殴打や爪でのひっかきにより生じ特に顔面や頭部に多いことが知られ、頭頸部の外傷では気道管理、出血を含めた急性期管理が必要と報告されています。過去には死亡事例に関する法医学解剖の報告もあり、ヒグマによる事故では頸椎損傷や鼠径部損傷と腸管損傷も報告されています。急性期の損傷部位の把握や骨折の評価には CT が用いられますが、放射線画像所見に基づく重症度分類や生存症例と死亡症例の比較に関する報告は少ないです。本研究では、クマ外傷による放射線画像所見（CT 所見）を生存例から死亡事例の死後画像までを含めて比較し、その特徴を明らかにすることを目的とします。

方法としては、秋田大学病院にて 2001 年以降クマ外傷により受診し CT を施行した患者様を放射線レポーティングシステムから抽出します。法医学解剖学講座で CT による死後画像診断を行った症例を法医学解剖学講座のデータベースより抽出します。口腔顎顔面骨折は日本口腔外科学会の『口腔顎顔面外傷 診療ガイドライン 2015 年改訂版に基づき 4 つの unit (frontal, upper midfacial, occlusal, mandibular) に分類します。顔面以外については CT による気管気管支損傷、肺損傷、大血管損傷、肝、脾、脾、消化管損傷などを日本外傷学会臓器損傷分類 2008 を用いて分類します。生存症例と死亡症例における各部位の所見とその grade を比較します。

研究実施期間：研究実施許可日～2028 年 3 月 31 日

利用を開始する予定日：2024 年 4 月 25 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

1) 患者基本情報：年齢、性別等

2) CT 画像（口腔顔面骨折，気管気管支損傷，肺損傷，大血管損傷，肝，膵，脾，消化管損傷など）

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：森 菜緒子

秋田大学大学院医学系研究科

放射線医学講座

〒010-8543 秋田県秋田市本道 1 丁目 1 - 1

Tel: 018-884-6179

Fax: 018-836-2623

E-mail: nmori@med.akita-u.ac.jp

-----以上